



第7回 男山地域まちづくり連携協定 年次報告会

令和3年2月10日

男山地域まちづくり連携協定の締結

地域とともに元気な暮らしができる、住みたい、住み続けたい男山

を目指し、京都府、八幡市、関西大学、UR都市機構が連携して取組んでいこう！



平成23年 9月 関西大学団地再編プロジェクト(文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業)開始

平成24年 4月 八幡市・京都府・関西大で戦略会議を開催 ⇒ 調査・検討・提案

平成25年 4月 UR都市機構が加わり連携協議会を開催 ⇒ 調査・検討・提案

平成25年10月 男山地域まちづくり連携協定の締結(無期限) ⇒ 調査・検討・提案・実践・検証 ⇒

平成28年 3月 文科省補助事業終了

平成26年11月 - 令和3年2月 第7回年次報告会

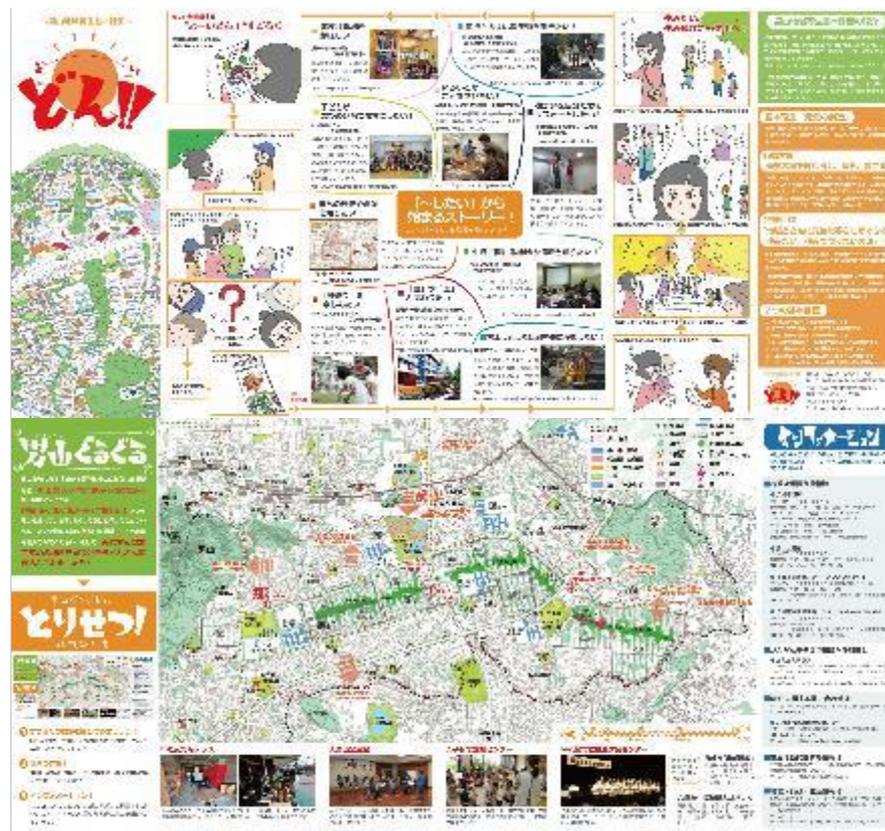
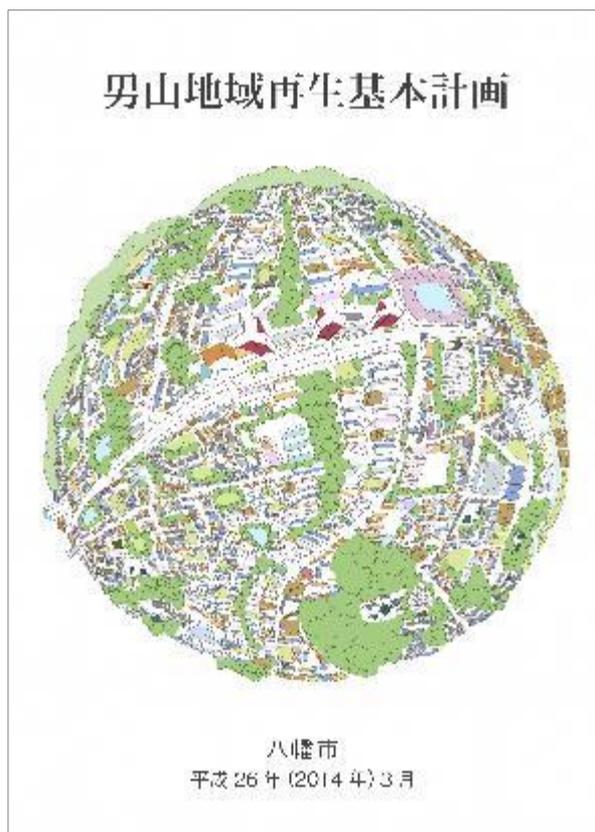
男山地域まちづくり連携協定の目的

- (1) 次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導入・確立
- (2) 多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立
- (3) 地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立
- (4) 住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

平成26年3月 男山地域再生基本計画の策定

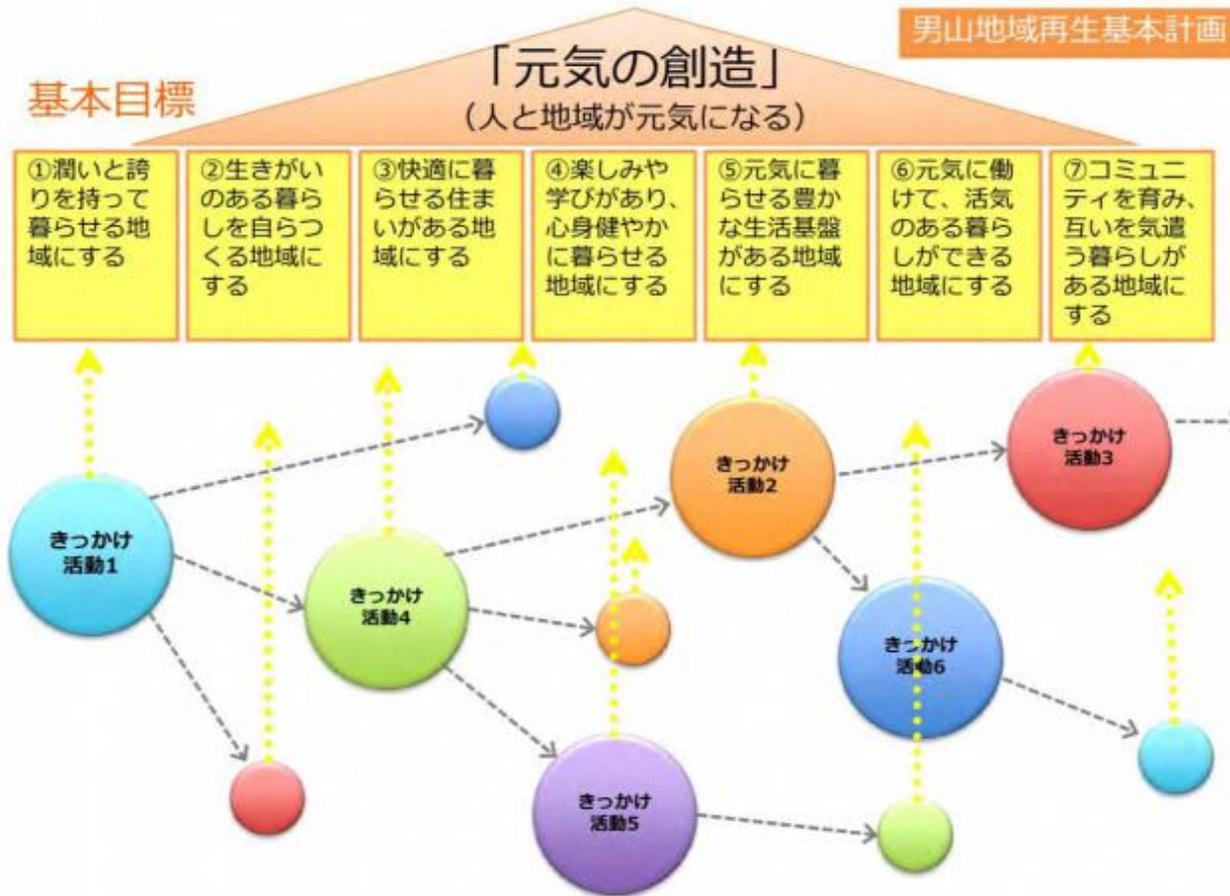
男山の将来目標

地域とともに元気な暮らしができる、
住みたい、住み続けたい男山



平成26年3月 男山地域再生基本計画の策定

「元気の創造」を生み出す7つの基本目標と「きっかけ活動」



現在、連携・協力事項により、具体的な取り組みである
様々な「きっかけ活動」が始まり展開している。

子育て支援の取組み

(1)次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、
地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくり

ダンチ de コソダテ の取組み

子育て層などの若い世代へ訴求し得るリノベーション住宅を、関西大学設計プランを主軸として、UR男山団地に投入（H26年度より過去6回実施）＜H26～R元年度供給実績19プラン38戸＞

【写真】 関西大学設計リノベーション住戸の一例



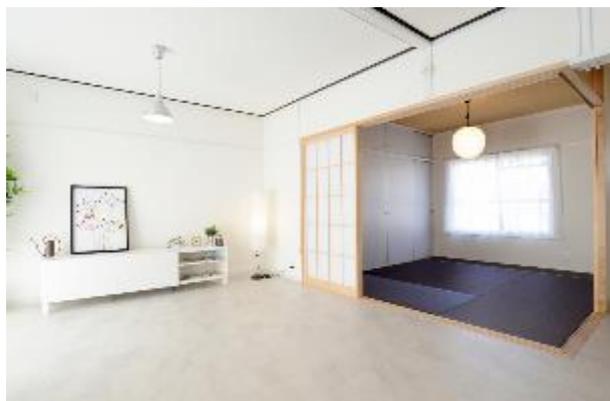
H26年度「のびやかに暮らす」



H27年度「ひろく暮らす」



H28年度「ロビーラウンジのある住まい」



H29年度「L字型引戸使い分ける自由な暮らし」



H30年度「自分で作っていく住まい」



R元年度「縁側のある住まい」

ダンチ de コソダテ の取組み

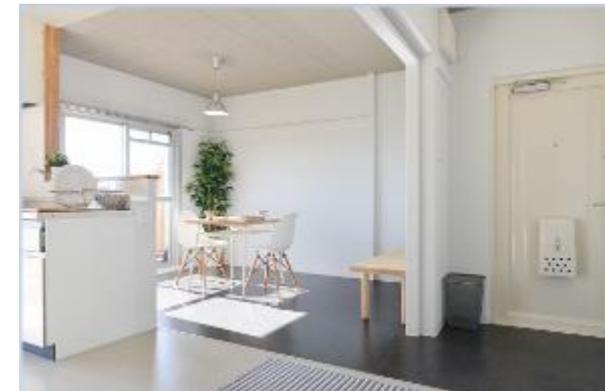
「DIYできるリノベーション」としてB・C・D地区で供給。



「小さく広く住む」 (R02)



「自分で作っていく住まい」 (H30)



「大きな玄関土間のある住まい」 (R01)

入居者特典に「DIYキット」を贈呈。だんだんラボと連動した取組に。
令和2年度供給：新規2プラン供給予定

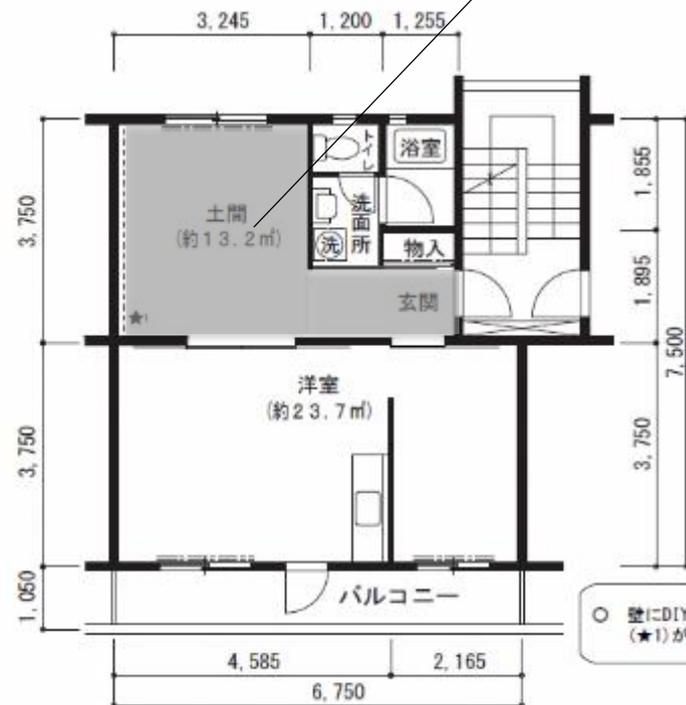
ダンチ de コソダテ の取組み

■令和2年度プラン例「ドマとマドから広がる」

Before <3K>



After <1 R>



○ 壁にDIYアレンジ用木軸 (★1)が設置されています。



【コンセプト】 この住戸はC地区の1階に位置し、北側には公園があり南には木々が生き茂っています。

北側を窓から外に開いている広い土間にし、住民や友達が集い談笑が可能な場とし、南側をリビングダイニングと寝室として設計しました。

玄関から土間が奥まで続いており、好きな所で土足と靴を脱ぐ部分を仕切ることが可能です。土間にカーペットを敷いて本を読んだり、机を設置してワーキングスペースにできます。

土間と南側の境の襖を開くことで、リビングダイニングと土間がつながり、広々とした空間となります。

ダンチ de コソダテ の取組み

若年層世帯を対象とする家賃負担の軽減

子育て世帯や予備軍となる若年世帯を対象とする家賃負担支援メニューをUR男山団地に投入。

割引制度	対象世帯	家賃割引額
子育て割	子育て世帯(H28.9月より新婚や婚約中の方、妊婦の方にも対象拡大)	最大9年間 20%割引
そのママ割	子育て世帯	3年間 20%割引
U35割	35歳以下の世帯の方(H28.1より29歳⇒35歳に対象拡大)	3年間 20%割引
近居割ワイド	ご親族と八幡市内で近居される子育て世帯等	5%割引



ダンチ de コソダテ の取組み

おひさまテラスの運営

新型コロナに負けず、元気に活動中！

- パパがリモートワークになったので…
- 寒いし外で遊び続けるのは…
- ずっと家にいるのはストレス…

など、様々な思いがある中で、感染予防対策をしっかりと、こどもやママにとってかけがえのない場所となるよう元気に活動しています。

開設以来、必ず誰かが訪れる地域子育て施設

開設：平成26年12月1日～

運営：おひさまテラスの会
(地域ボランティア)

時間：月・火・金・土(第2・4)
午前10時～午後4時

対象：0歳～就学前のこどもと
その親

利用親子組数(令和元年度実績)
661組(約5組/日)



地域包括ケアの確立

- (2)多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立
- (3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

八幡市地域包括ケア複合施設YMBT

地域密着型特別養護老人ホーム 定員 29名

高齢者あんしんサポートハウス 定員 20名

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

多目的ホール

UR男山団地内において
平成27年11月1日 地域包括ケア複合施設YMBT 開設

地域包括ケア複合施設YMBTの役割①

多様な高齢者のニーズに対応できる施設

- ・地域での生活を24時間体制で支援(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)
- ・低所得者向けの高齢者居住施設(あんしんサポートハウス)
- ・地域の重度要介護者が生活する施設(地域密着型特別養護老人ホーム)



折り紙教室



実習生との交流

地域包括ケア複合施設YMBTの役割②

元気高齢者の参画、地域へのサービス提供の場の確保

- ・多目的ホールの活用



毎朝のラジオ体操



出前講座、地域の催し等



介護予防への取り組み

地域包括ケア複合施設YMBTの役割③

地域包括ケア推進拠点

- ・医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスを包括的に提供

地域包括ケア



健康福祉分野を中心とした 男山地域再生プロジェクト

(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

地域医療福祉拠点化の取組み

URの地域医療福祉拠点化の取組みは、住環境の整備や、地方公共団体、医療・介護等を担う関係団体等との連携を図ることにより、暮らしやすい団地・地域の形成、団地で最後まで住み続けられる環境整備を目指すものです。拠点化の進め方に決まった形はありません。地方公共団体、自治会等の地域関係者と連携・協力しながら、地域の状況に応じて、様々な要素の中から必要なものを組み合わせて、住宅・施設・サービス等の整備を推進していきます。

男山団地では、連携協定に基づき様々な整備が進められている中、ここでは、「中層エレベーターの設置」「健康寿命サポート住宅の供給」「生活支援アドバイザーの配置」について紹介します。

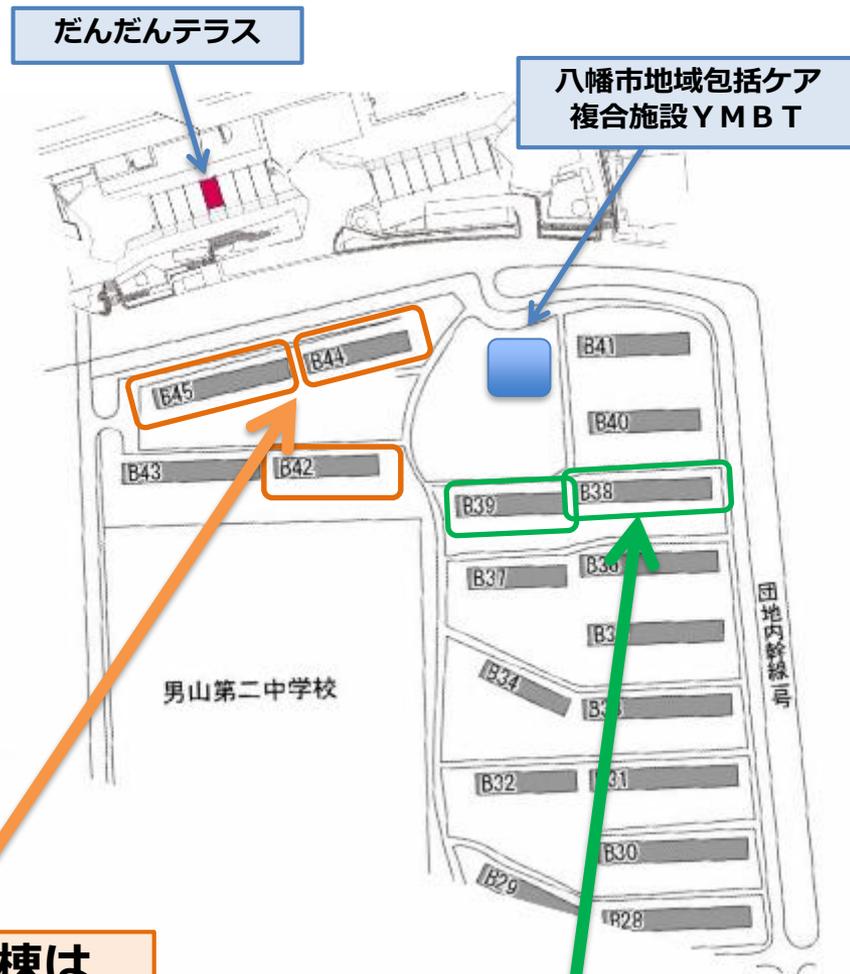


地域医療福祉拠点化の取組み

1 中層エレベーターの設置

男山団地をはじめ、昭和40年代に建設した郊外団地には、5階建て・エレベーターなしの住棟が数多くあります。

地域医療福祉拠点化を進める団地における団地内共用部のバリアフリー改修について、国からの支援が拡充されたことを受け、今般、男山団地の一部の住棟において、中層エレベーターの設置工事を実施しました。

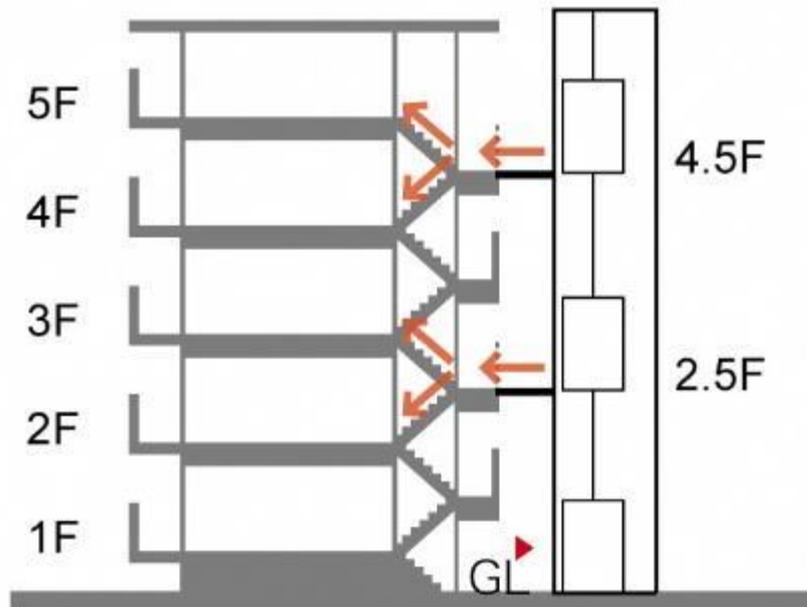


**B42、B44、B45の3棟は
H31.3.20～供用開始**

**B38、B39の2棟は
R2.3.13～供用開始**

地域医療福祉拠点化の取組み

後付したエレベーターは、既存の階段室の外側に設置し、2～3階部分と4～5階部分の階段室の踊場の腰壁を撤去し、そこにエレベーターの出入り口を設置しています。これにより、お住まいの方への工事による影響をできるだけ減らすとともに、2～5階にお住まいの方は、半階分の昇降により外出することが可能となりました。



階段とエレベーターの関係



エレベーター設置工事の様子

地域医療福祉拠点化の取組み

2 健康寿命サポート住宅の供給

手すりや浴室暖房を設置する等、高齢者の方の住戸内の安全・安心に配慮した「健康寿命サポート住宅」への改修をすすめています。平成28年度からこれまでに56戸供給しております。



- ・人感センサー付照明
- ・手すりの設置 など



- ・またぎ高さを低く設定
- ・浴室暖房の設置 など



- ・段差の軽減
- ・多機能便座への変更 など

地域医療福祉拠点化の取組み

3 生活支援アドバイザーの配置

高齢者の方が安心して暮らし続けられるよう、各種相談対応や電話によるあんしんコール、交流促進のためのイベント等を実施しています。

※R2年度はコロナ禍のためイベント実施を見送っております。



過年度に男山団地で実施された生活支援アドバイザー主催イベントの様子

周知案内の事例

この度、当団地にお住まいのご高齢の皆さまの日常生活をサポートする『生活支援アドバイザー』を当団地管理サービス事務所に配置致しました。

- 配置場所 管理サービス事務所
- 営業日時 月・火・木～土曜日:9時30分～17時(12～13時は昼休み)
※ 水・日曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)は定休日
- 電話番号 (生活支援アドバイザー専用番号)

◎ 主なサービス内容

- ① ご高齢者の日常生活にかかわる相談受付
※ 管理サービス事務所に相談ブースを設置しております。
- ② URの高齢者向け制度のご案内
- ③ 公的機関等の高齢者向け施策に関するご案内
- ④ 定期的な安否確認(「あんしんコール」〔登録制〕)

※ これらのサービスは、原則60歳以上のご高齢者の方を対象にさせていただきます。

生活支援アドバイザー紹介

皆様のお役に立ちますよう一生懸命業務に取り組んで参りますので、宜しくお願い致します。



絆ネット事業とは

【目的】

地域の高齢者、障がい者、児童などの見守り・生活支援を進める上で、複数機関の連携による支援や公民協働での支援など、地域の様々な主体による取組を横断的に調整・推進し地域全体での新たな見守り活動を展開、地域福祉の再構築を目指す。

【実施主体】

八幡市社会福祉協議会

取組み内容

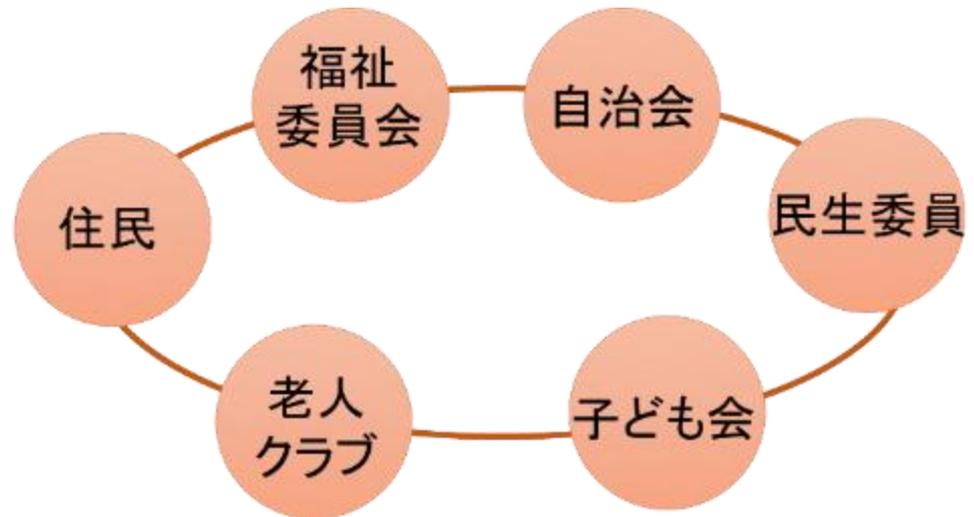
- 住民による見守り・支え合い活動の推進
- 絆ネット地域懇談会の開催

住民による見守り・支え合い活動の推進

概要

自治会、福祉委員、民生児童委員、老人クラブ等の地域団体が地域の実態共有や課題解決に向けた取組みについて協議するネットワークとして、自治会単位での地区座談会を推進している。

また地区座談会を通して、取組みに応じた組織化等の活動支援を行う。



想定される団体のイメージ図

住民による見守り・支え合い活動の推進(取組例)



男山B地区見守り隊

手上げ方式の見守り活動と下校時のパトロールなどの「さりげない」見守り活動を進め、異変時の情報が入れば見守り隊が対応することで、異変発見や行政や専門機関につなげる仕組みがある地域へ。

男山A地区 福祉座談会実行委員会

子どもに向けた取組みであった「ラジオ体操」の内容を再度検討し、住民の健康増進と交流を目的として再スタートさせ、体操後にはカフェを開催し、気軽に会話ができ、住民同士の交流がより深まる地域へ。



絆ネット地域懇談会の開催

概要

地域活動者と専門職等関係機関が一同に集まり、取組みや地域課題の共有を行い、各地域での活動活性化、課題解決に向けた様々な連携促進を図ることを目的に開催します。

《主な参加団体》

各地域活動者（自治会、福祉委員会、民生児童委員、老人クラブ）

男山交番連絡協議会

八幡防犯推進委員協議会 男山支部

八幡市地域包括支援センターやまばと・美杉会

小学校・中学校（さくら・くすのき・男山第二・男山第三）

UR都市機構

生活情報センター

八幡警察署

男山地域コーディネーター（だんだんテラス）

八幡市

八幡市社会福祉協議会

絆ネット地域懇談会の開催

【日時】令和元年10月28日 10時～12時

【場所】男山中央センター集会所

【内容】

テーマ：災害時に向けた見守り・支え合い活動

- 男山第3住宅地区（様々な団体と連携した地域内の防災訓練）
- やってみよう会議（防災チームの取組）
- 警察・生活情報センター（災害に関する詐欺やトラブルの実態）

※令和2年度はコロナ禍のため開催していません。



人・まち・キャンパス連携支援事業

(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

人・まち・キャンパス連携支援事業による支援

●趣旨

多くの学生が大学のキャンパスを飛び出し、府内各地で地域をフィールドとした活動を経験し、学び、交流する中で成長できる取組みを進め、大学で学ぶことの魅力をさらに高めるとともに、**地域に愛着を持ち、地域課題の解決や府内産業に貢献する人材を育成することを目指す。**

●令和2年度 府内全体での取組み状況

9の大学・地域連携プログラム(6大学・8市町村)を採択・支援

●関西大学×八幡市(男山地域)への支援

大学が活動地域に拠点を設置、人員を配置し、年間を通じた地域活性化の取組みを実施する**理想的なケース**として事業採択(28~)

＜支援内容＞

大学・学生の活動環境面をサポート

(地域コーディネート活動費用、学生・教員等の移動費用等を支援)

だんだんテラスの取組み

- (3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立
- (4)住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

365日気軽に集まれるだんだんテラス

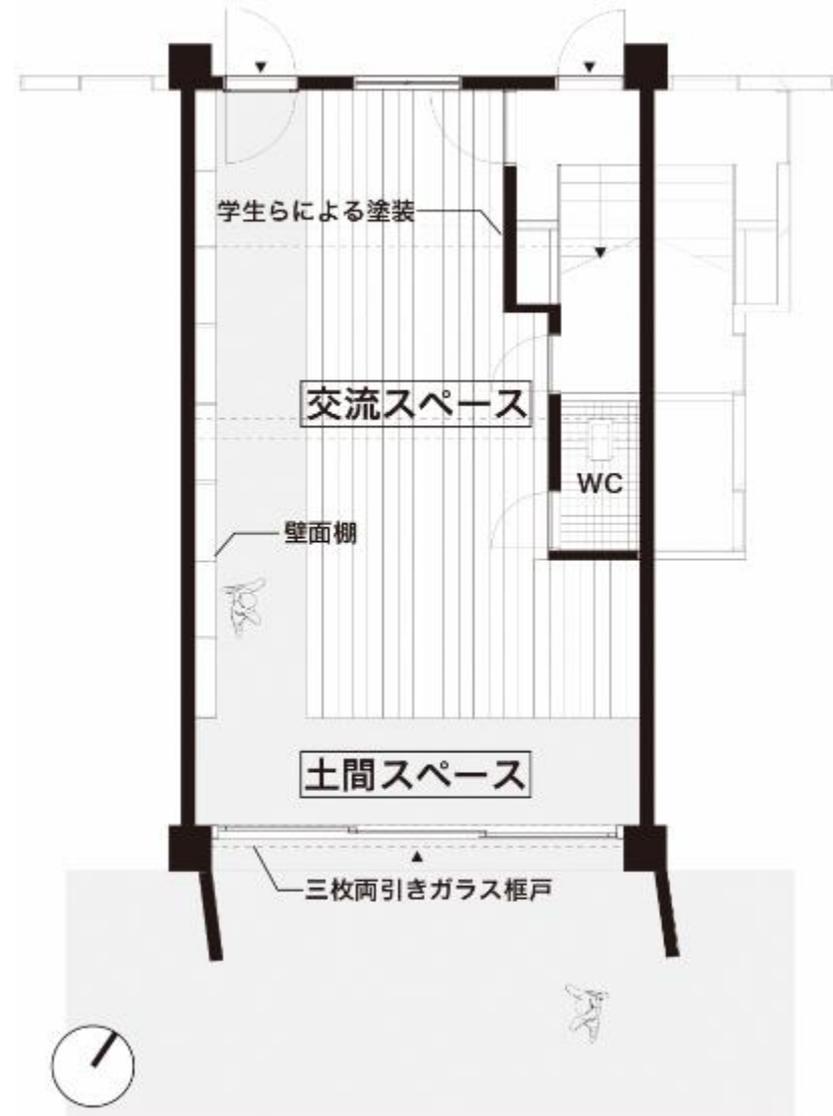


開設日：平成25年11月16日～

運営：だんだんテラスの会

主に大学院生が常駐

時間：年中無休(10時-18時)



住民と学生が協働で継続した運営をめざす

交流・情報交換・活動の場



だんだん朝市



朝10時からのラジオ体操



リモートによる授業交流



手作り市メンバーによる「マスク」の配布

まちづくり運動体やってみよう会議の開催



男山やってみよう会議

○毎月第3土曜日開催

自発的・自立的に

男山地域のまちづくりに
関わりたい市民を公募。

○開催の狙い

日常の場(だんだんテラス)

非日常の場(やってみよう)

2つのプラットフォーム

で住民活動を支援する。

まちづくり運動体やってみよう会議の成果



屋外空間活用キットを制作し「チェアリングシネマ」を開催

「だんだんラボ」で屋外空間活用キットを制作し、団地内公園で映画観賞会を開催。

「3密」を避けた交流の機会創出に向けた実験的な取り組みとなった。

男山地域に滞在するアーティストらと交流



京都市アーティスト・イン・レジデンス事業

募集要項
【募集期間】
2020.7.10（土）
17時まで

京都： Re-Search 2020 in 八幡

kyoto-research.com

参加者募集!!

【応募方法】
① 5月 募集要項をダウンロード
② 7月9日までに募集要項を提出
③ 募集要項を提出
④ 募集要項を提出

京都市文化局 大北所
KYO-RESEARCH.COM

アーティストインレジデンス「京都:Re-Search in八幡」

アーティストは、団地に居住しリサーチを実施。だんだんテラスでの交流を通じて、令和2年度は、作品のプランづくりを行った。令和3年度に作品を制作・発表予定。

集会所を中心としたプレイスメイキングの実践



D地区集会所リノベーション「食」の拠点化プロジェクト

利用頻度が減少していた集会所をリノベーションし、「食」をテーマとした拠点をを目指す。UR都市機構とだんだんテラスの会が協働し、令和3年度から運営開始。

ココロミタウンの取組み (UR男山団地C地区)

- (3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立
- (4)住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

ココロミタウンプロジェクトの取組み

必要な時期に自分で住まいに手を加えて、住み続けることのできるセルフリノベーション特区をUR男山団地内に新設(愛称:ココロミタウン)。

【ココロミタウンの特徴】

- ① 申請等により退去時の原状回復義務が免除される特典付の賃貸住宅を供給

⇒平成28年10月15日より特区化

- ② 気軽に取り組める改修サポート体制



住民の皆さんが、住まいながら、日常の暮らしを少し良くする試みを自ら実施することで、住まいに愛着を持って、長く住み続けたいまちとなることを目指します。

だんだんテラスを拡張しラボ機能が充実

だんだんテラス横の空店舗を活用しH30.2.4開設
「だんだんラボ」



セルフリノベーションの促進やものづくりコミュニティの醸成、
DIY(Do it yourself)の精神を軸にまちづくり活動の拠点を目指す。

ステイホーム期間「ものづくり」が広がる



網戸の張り替え



趣味の工作



集合ポストのゴミ置き防止



布マスク



ソーシャルディスタンス棒



パソコンの修理



ハロウインの変装グッズ

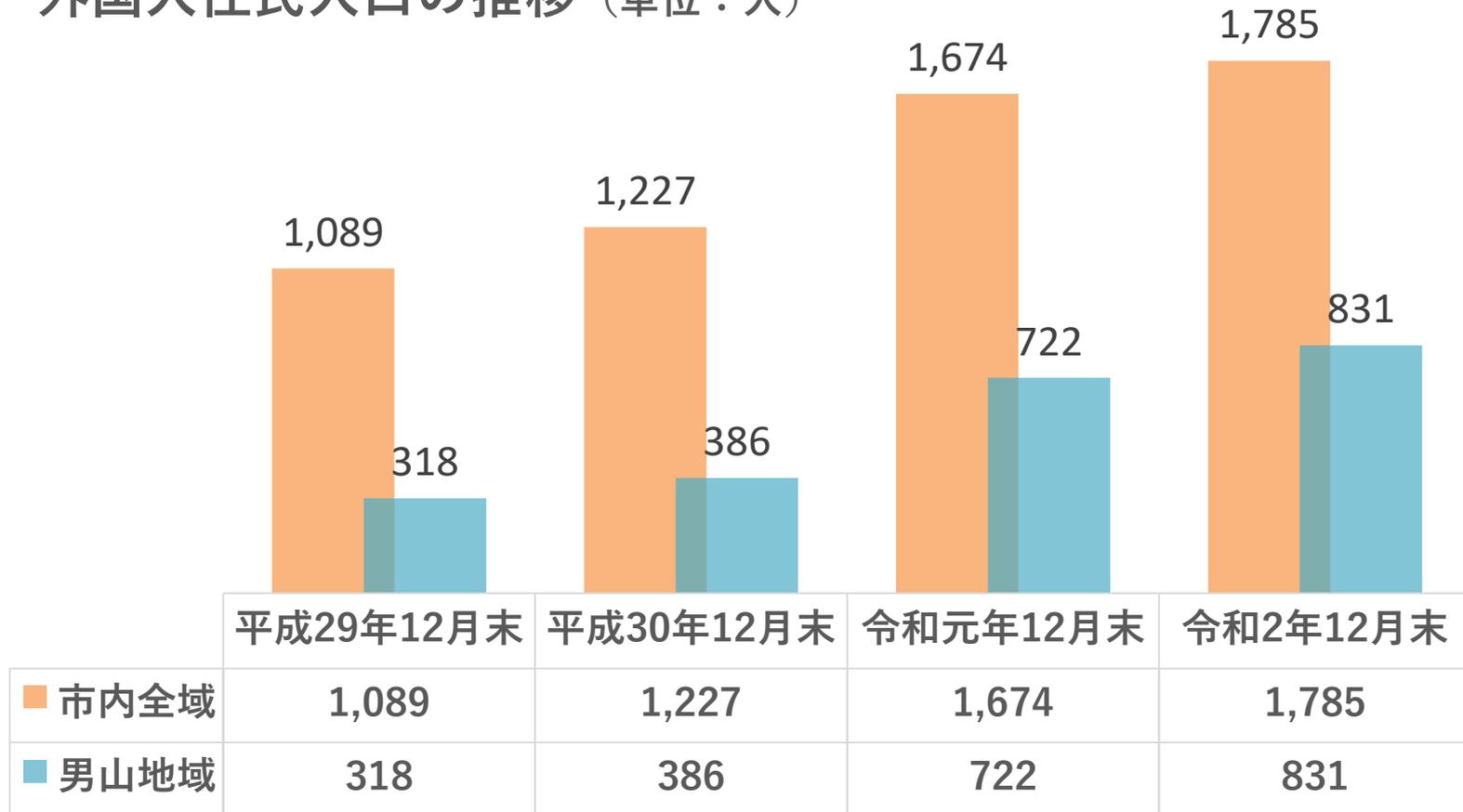
「日本に住む外国人の くらしのそうだん事例集」について

(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立



八幡市における外国人の現状

外国人住民人口の推移（単位：人）

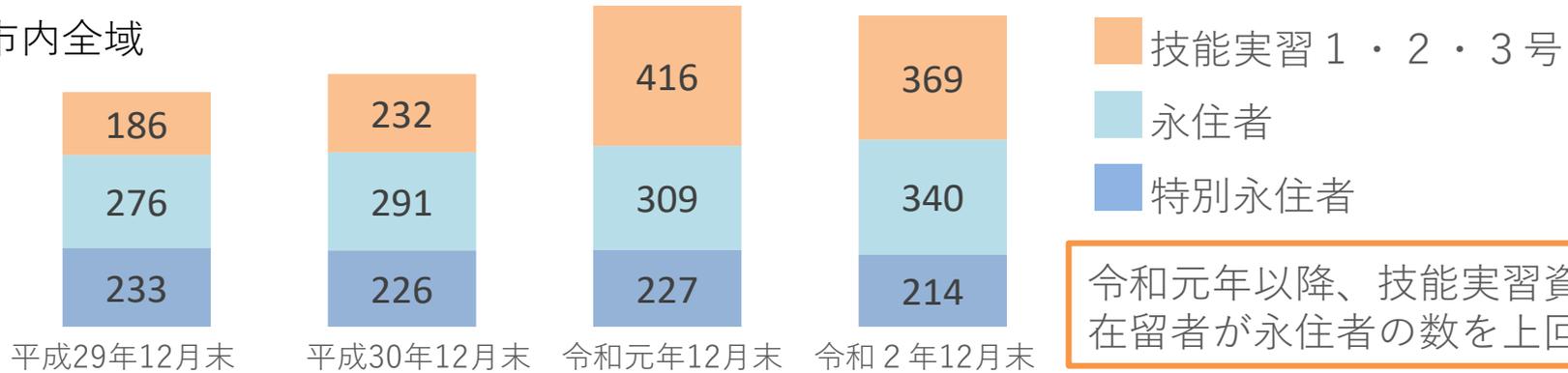


- ・市内企業の技能実習生の受け入れ等により、外国人住民の人口は、年々増加している（総人口の約2.5%）
- ・外国人住民の多くは、男山地域に居住

男山地域における外国人の現状

外国人住民の在留資格別の推移（上位3資格）（単位：人）

市内全域



令和元年以降、技能実習資格での在留者が永住者の数を上回る

外国人住民の国籍別人数（上位5カ国）（単位：人）※令和2年12月末時点

市内全域

国籍	人数
1. ベトナム	520
2. 中国（台湾含む）	295
3. 韓国または朝鮮	249
4. ブラジル	203
5. スリランカ	76
総数	1,785

男山地域

国籍	人数
1. ベトナム	363
2. ブラジル	136
3. 韓国または朝鮮	62
4. 中国（台湾含む）	60
5. シリア	35
総数	831

- 
男山地域には、特にベトナム人・ブラジル人が多く、その他様々な国籍や在留資格の外国人が居住 ⇒ 市やURに外国人に関係する相談が増加

くらしのそうだん事例集の作成

生活相談の背景

外国人

- ・当人に悪気はなく、日本の文化やルールを知らないだけ
- ・言葉が通じないため、自分の言い分などを説明できない



日本人

- ・外国人に慣れないため、不安を感じている
- ・言葉が通じず、相手のことを知らないため直接話さない

事例集の構成

- ・内 容：外国人受入企業等から事例をいただき、「よくある相談事例」としてとりまとめ。外国人と日本人の心情や、解決方法等をあわせて掲載。
- ・コラム：日本に住む外国人に知っておいてほしいくらしの情報を掲載。（自治会と回覧板、災害と避難所等）
- ・翻 訳：外国人受入企業等にご協力いただき、やさしい日本語の他、英語、ベトナム語、ポルトガル語版を作成予定。

事例集作成の目的

- ・よくある相談事例と解決方法をまとめ、地域での共生実現の一助とする
- ・住民がお互いのことを知るためのきっかけづくり
- ・連携協議会と外国人受入企業等との協働による地域課題への取組



住まい方説明会・交流会の実施



男山団地の外国人居住者に対する 住まい方説明会及び交流会

日時：令和2年2月4日（火）午後7時～9時 場所：男山団地中央センター集会所
参加者：110名（うちベトナム人技能実習生33名）



生活ルールや
防災情報の説明



日本文化の体験
（節分の豆まき）



地域住民との交流
代表者あいさつ

⇒ 監理団体や外国人受入企業との協働のモデルケースとして、今後も実施予定

男山地域の情報発信

■ だんだんテラス facebook おひさまテラス facebook

■ 八幡市役所

<http://www.city.yawata.kyoto.jp/category/1-23-0-0-0.html>

■ UR男山団地(特設サイト)

https://www.ur-net.go.jp/west/case/otokoyama_danchi/index.html

■ UR男山団地(住宅情報)

https://www.ur-net.go.jp/chintai/kansai/kyoto/80_1840.html

■ 関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト(KSDP内サイト)

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/index.html>

■ 京都府政策企画部企画参事(中部担当・府民協働担当)

http://www.pref.kyoto.jp/chiikiriyoku/koukyouin_yawata.html